



ERFC Newsletter

ユーノスロードスターファンクラブ通信 2010 vol.1

ERFC 清里ミーティング告知号

今年の『ERFC清里ミーティング』は
10月31日に開催します！



今年も清里ミーティング開催のお知らせの時期になりました。

今年は**10月31日**、例年通りに清里高原の(財)キープ協会清泉寮で開催いたします。

国内で(おそらく)唯一の文科系ミーティングと自称して幾星霜。今回も例によって例のごとく、いつも通りの感じで、肩の力を抜いたまったりとしたミーティングとなる予定です。

そして今年がこれまでのようにゲストをお迎えしながらお話を聞く形式の清里ミーティングとしては最後の年になる予定です。来年以降はどうするかは未定ですが、開催するとしてもみんなでゲストのお話を聞いて・・・なんて今のスタイルでは無くなりそうです。駐車場に車を並べてお弁当広げてただ話だけのさらにお気楽なイベントになるかもしれませんし、逆に前夜から清泉寮に泊まってもらうことを前提としたちょっと贅沢な方向に行かないとも限りません(笑)。まあ、今はとりあえず何かの形で続けていけたらいいな、と漠然と思っているだけです。

それよりまずは今年の清里ミーティングですね。ひと区切りとなるイベントだからと言って気張らないのがERFCのいいところ(たぶん)。いつも通りに皆さんをお迎えできるように準備を始めていますので、みなさんもいつも通りに気楽にご参加くだされば幸いです。

参加募集の開始は9月の下旬を予定。いつものようにWEBとこのプレスでお知らせしますので、もうしばらくお待ちください。

では今年も清里でお会いしましょう。

(ERFC 清里ミーティング実行委員長：豆蔵)

さてさて、当然ながらこの半年間、スタッフはあいかわらずロードスターと絡んだり絡まなかったり、それぞれに過ごしております。そんなスタッフたちの近況報告を。

『シート換えました』

今回選んだシートは、デルタ工業のミュールン。何度か協賛していただいているので、清里ミーティングに参加されたことのある方は、ご存知かもしれません。だから…というわけでもないんですが。純正シートが体に合わない腰痛持ちの妻は、ロードスターにはあまり乗りたがりません。ある日、M氏の車に装着されたミュールンシートに「試しに座ってごらん？」と言ったら、座った途端「ウチもこれにしよう!!」。という訳で、現在赤い「ミュールン」が2脚、ウチのロードスターに付いています。走ってみての感想は…、「ハンモックみたい」、「思ったよりサイドサポートがしっかりしている」。妻も満足しています。シルバーのボディカラーに赤いシート…。シートを交換する前より格段に、乗る回数が増えました。

(まえた)

『こども清里で』

スタッフの現在の平均年齢は40代。私も当然40代。しかも、もうギリギリ。いつからスタッフになったのか？忘れそうです。

春日通りのYesterdayでの定期会合も、roadsterに乗っていたことさえも、遠い過去の思い出になっています。

年に一度の清里ミーティングの開催は良くも悪くも定番化しました。かつて我々も若いころはパワー全開し、座学の後半が2テーマ並行で2部屋で行ったこともありますし、走りのイベントもありました。清里ミーティング以外でも、マツダスピードの寺田さんをお呼びして、ジムカーナを行ったり、のんびりピクニックをしたり、温泉に行ったり、国内外のクラブメンバーとお会いしたりと地味ながら多彩に活動していました。

清里ミーティング20周年で一度気持ちを整理してから次の21年目をと、考えていましたが、まだ自分でも答えは出せず、今年もスワップミートを担当することになります。皆さんの参加をお待ちしております。ERFCからは協賛企業からのノベルティグッズのデッドストック放出もあるかもしれません。お楽しみに。

(スワップミート担当 片貝)

『レディース通信 その1』

8月には第2子が誕生する予定なのですが、妊娠直後、まず医者から「強い振動は厳禁！」と自転車を禁じられ、その後、ロードスターの乗車も自粛して、はや8カ月が過ぎました。確か、10年前に息子の妊娠の際は、ロードスターにのると気分が悪くなり、また、チャイルドシートが乗らない事もあり、レガシーに乗り換えたんだっけ……。すっかり忘れていましたが10年前も、今も、ロードスターに乗れなくなるって本当にさみしいものです。

はじめて、ロードスターに乗った時、17、8年前でしょうか、私の感想は「屋根が無い?!」でした。そもそも、旦那と知り合う前から免許こそ持ってはいましたが、車は走る道具だと思っていたので、そこに「趣味性」を持っている人種に出会った事が無く、新鮮と言えば新鮮でしたが、異和感と言えなくもない状況でした。なんとと言っても教習所で習った事が全てで、ヘッドライトは「前照灯」ハザードは「非常停止灯」バックミラーは「後方確認鏡」と呼び、当時、ERFCの皆様から、たっぷり笑われた私です。

そんな私が、段々と「ロードスターっていいな」とか「同じ趣味を持って集まるのっていいな」と考えるようになり、自分自身でもロードスターを運転するようになると、その気持ちよさを実感!!屋根が無くて最高!と納得しました。

今では、息子も10歳。免許を取ったら、ぜひロードスターを走らせてもらいたい、と思うようになっていました。息子は助手席にだれを乗せるのでしょうか。妹か弟、父？母だって乗せてもらいたいな。でも、その前に「運転が下手」なんて言われぬように私がロードスターと仲良くしなければ。

年月の経過とともにすっかり変わった自分の気持ちに、正直笑ってしまう感じですが、まずは無事に出産し、近所をひとまわりドライブしたいと思います（笑）

（さっちゃん）

『無題』

世は俄かサッカーファンで溢れかえっ・・・ていたのはもう8年も前のこと。

そう思っていたら、この1～2週間、突然そんな状況になっている。かれこれ40年近くサッカーを見続けている（そう、この原稿もW杯トーナメント一回戦屈指のカードといわれるドイツ対イングランドが流れるテレビ（アナログ）を横目で見つつ書いている）身としては、正直、嬉しい様な切ないような複雑な気持ちになる。いやそれでも、枯れた色の冬芝のグラウンドで繰り広げられる（決して華麗ではない）サッカーを椅子も無いスタンドで震えながら見た状況を思えば、俄かでも何でも、サッカーの話題がそこかしこで聞かれることは実に幸せなことである。（ああドイツの3点目が入った・・・さらばイングランドよ・・・）

極東の島国にサッカーが根付いたとはまだ決して思えないが、でもペンペン草も生えない状況から、芝らしき芽が揃いつつあるのは確かだろう。本当に。ジーコの説明からはじめなきやならなかった頃を思えば、もうパラダイスだ。（そしてドイツに4点目・・・誰がこんな戦況を予想したか?!）

南アフリカで開催されているW杯で、我がニッポンが初戦のカメルーン戦で勝利を上げるだけでなく2勝してグループリーグを突破することを、自信を持って予想した専門家やメディアがどのくらいいたか。自国の代表が勝ち上がるシーンを真剣に祈り信じたファンがどのくらいいたか。。

まあ、そんなことはどうでもいい。サッカーは楽しい。

スタメン、フォーメーションから展開を予想し、意表をつくプレーに歓喜し、惜しいシーンに地団駄を踏み、悪質なタックルに怒号し、誤審に悪態をつき、ごく稀に良いジャッジに感心する。そのくらいサッカーは楽しい。

もし、この幸運なスポーツに、（たとえきっかけがメッシの愛らしさだったとしても）一度でも触れて、面白いなあと感じたら、ぜひこの頂点にある大会の、足元の更に下の、地盤の奥深くに沈んでいるかの様にみえるかもしれない、そんな地元のサッカーチームを探してみたい。

そこそこのサイズの自治体だったら、プロもしくはプロになろうとしているチームや地盤の上のほうに位置するチームの一つくらいは、実はあったりする。ほんとに。

そのチームには、クリスチアーノは居ない。似た頭の形は居るかもしれないがイニエスタも居ない。無回転のフリーキックを蹴る選手は、もしかしたら居るかもしれない。いやマジで。

いずれにせよ、華麗なプレーも凄いシュートも無いかもしれない。いや、きっと無い。でも、地底でプレーする彼らの行く先の更に先にかすかに輝いて見えてくるのが、今、南アフリカから放送されている、ワールドカップなのだ。そう、そんな地底の奥底のサッカーが存在しなければ、本田もヤットも長谷部も居なかったかもしれない。

そして、世界のあちこちで腹の底から自国を応援する人々の日常は、そんな彼らの国にある地底の奥底のチームを、心底応援していたりするのだ。

さあ、会が終わり、夏の厳しい暑さがおさまったころにでも、あなたの街にあるスタジアムに行ってみませんか？

（ああ、ルーニーが無得点で大会から居なくなるなんて・・・）

-----書き人知らず-----

『レディース通信 その2』～日常における「寛容の世界」～

今年の春に彼岸に渡られた免疫学者の多田富雄さんが、晩年提唱しておられたのが「寛容の世界」というものだった。人間の免疫システムは体内に侵入してきた異物に向かって攻撃を行うが、排除が過ぎると本来守るべき人体にまで危害を及ぼす。これを避けるために異物と共存することで生命を守ることがあるらしい。免疫学ではこのような状態を「寛容」と表現するのだそうだ。多田さんはこれを人間の社会にもあてはめていくことはできないかと、国同士・民族同士のいさかいが絶えない世界を憂えておられたのだという。

わが身を省みると・・・寛容とは程遠いありさまに愕然とする。生まれつきの気の短さは致し方ないとはいえ、小さなことにカリカリする毎日。とりわけ、ハンドルを握ったらできるだけ冷静に・・・とは思ふものの、やっぱりうっかり口をつく悪態に、自分でもがっかりしてしまう。

向田邦子さんのエッセイに、免許を持たなかった向田さんがタクシーに乗った際に、運転手さんが「免許がないのは良い事だ」と言ったという話があった。その運転手氏は「クルマを運転する女は目つきが悪くなるから止めた方がよろしい」という持論を展開したという。

もちろん向田さん若かりし頃の話だから、今とはずいぶん状況が違ふとは思ふが、引っかかるところがないわけではない。「今ワタシ、目つき悪いかも・・・」と思う瞬間は確かにある。目つきの悪いオバハンが運転するロードスター・・・客観的に見て怖い。

しかもそのオバハンが悪態つきまくっている。もう相当怖い。しかし「自分が思うほど他人はワタシのことなんざ見てないしー、クルマの中までそうそう見えるもんじゃないし」とちょっとタカをくくっていた。つい先日までは。

職場で、業務の関係で最近話をするようになった人に「あのっ、ユーノス乗ってますよね？」と聞かれたのである。こっちはまったくのノーマークだったので「そ、そうですけど?!」とお答えすると、どうも朝の通勤途中でよく互いのクルマが前後になるらしい。「やー、女性でユーノス乗ってるって珍しいですよー」とか何とか言われ、何とか笑顔で返したが内心は冷や汗ダラダラ。

しっかり見られてるんじゃない!!!

その日は、職場を出て駐車場にたどり着きクルマに乗り込んだ後に、しみじみ反省した。これじゃーイカン。大人として寛容の世界を常に目指し、女性として柔らかな眼差しを常に保つ・・・ようになりたいが、道のりは・・・遠いなあ・・・

(つのにし)

～編集後記～

そんなわけで今年も実行委員長の豆蔵です。長く続いてきたERFC清里ミーティングも、ついに(ようやく?)今年の21回目までひと区切りとなります。キリのいい昨年ではなく、21回目と言う中途半端なところでそういう決断をするのがERFCらしいところ・・・って思ってたんですけど。(笑)

思えば世の中における車の位置付けもステイタスや趣味性を語るものから実用重視へと変わり、そんな流れの中で発足時の母体だったNAVIもこの春で休刊するなど、この20年で我々を取り巻く環境も大きく変わってきました。清里ミーティングもこのあたりで一旦区切りをつけてみようということになりました。初めにも書いたように来年以降はよりゆるい方向に進むのか、それとも狭くマニアックな方向に進むのか。このシチュエーションや皆さんとの繋がりが(もちろんスタッフ間も)を失うのはもったいない気もするものの、まだ明確な結論は出ていません。なにかいい知恵があればご提案ください。

ところで予想以上にあちこちから「今年はやるの?」とか「予定は入ってるの?」とか聞かれましたが、今年の開催予定日は昨年末に発行の報告号で、編集後記にちゃんと書いておいたんですけどね。(右参照w)

ではみなさん。とりあえずはまた次回、清里でお会いしましょう。

(ERFC 清里ミーティング実行委員長 兼 編集担当 : まめぞう)

それだ
来年度の
年以前
は開けな
十二分な
月日を結
参加者の
十分も予
一つの話
日頃は開
きて、お
予めのス
定かでは
しまっ



ERFC Newsletter
ユーノスロードスターファンクラブ通信

2010 Vol.1

2010年7月20日発行

EUNOS ROADSTER FAN CLUB 事務局：埼玉県上尾市井戸木4-22-22 角山方
E-MAIL: info@erfc.sakura.ne.jp URL: http://erfc.sakura.ne.jp